

# 快挙！本市出身の 16歳奨励会員が女流王座に

## 加藤桃子さん

● Monoko Kato

### 【PROFILE】かとう・ももこ

1995年細江区生まれの16歳。都内の通信制の高校2年生。世田谷区在住。細江小学校5年生まで本市で過ごし、6年生になるときに奨励会に入会。趣味は体力づくりを兼ねたウォーキング。好きなことは歌うことや食べることなど。時間があれば好きなアーティストのライブに行きたいという。師匠は安恵照剛八段で、尊敬する棋士は島朗九段。奨励会1級。



女流王座となり、記念撮影する加藤さん

©日本将棋連盟

# 「本当に将棋が大好き 将来は棋士になりたい」

小学生のころは、師匠のところに通いながら将棋を勉強し、県内外の大会に参加。「父が指導していた明誠高校将棋部の部員と対局したり、地元で将棋ができる同年代の人がいなかったため、大会で知り合う人たちなどと対局したりしていました」と当時の様子を振り返る。3年生のときに出場した県大会の決勝戦



第5局終了直後、駒を確認する加藤さん

で敗退したが、そのころから本格的に将棋の道に進みたいと意識したという。5年生では全国小学生将棋大会で優勝。6年生になると将棋の世界に身を置くため、母の実家がある東京に引っ越し、11歳という女性では史上2番目の若さで奨励会に入会。（現在約160人の会員中、女性は加藤さんを含め5人のみ）

奨励会では、日々の修行や会員との対局で切磋琢磨しながら平成23年9月に1級に昇級。日本将棋連盟が女性奨励会員の「女流戦」への参加を同年5月に解禁したことから、「女流王座戦（女流戦最高峰のタイトル戦として昨年創設）」に女流棋士と同じ扱いで出場予選を通過し、トーナメントを勝ち進んだ。10月から12月にかけて五番勝負で行われた

清水女流六段との決勝戦で勝利し、初代女流王座に就いた。「まずは初段になって、今年中に二段を目指すことが目標。将来は四段に昇段し、棋士になりたい」と将来の夢を語ってくれた加藤さん。

最終目標は棋士戦のタイトル獲得なのだろうか。「そうなりたいたいが想像できないので。今は初段の壁を越えたい」と謙虚に話してくれた。

「私は、自然豊かな牧之原市が大好き。最高の場所だと思います。海水浴や花火大会、特にお祭りが楽しかった。今すぐにも帰りたいけれど、目標達成までは帰れません」何の迷いもなく、断固たる決意を抱く16歳の女流王座、加藤桃子。夢を叶えるべく日々成長を続ける彼女を今後応援していきたい。



笑顔で質問に答える姿は普通の高校生

### ■用語解説 奨励会（じょうれいかい）

公益社団法人日本将棋連盟のプロ棋士養成機関。6級から三段までの階級別。入会するには、満19歳以下で毎年1回の試験（棋士の推薦が原則必須）に合格しなければならない。6級でも都道府県のアマチュアトップクラスに相当する力があると言われる。

棋士（きし）  
プロの正式名称。四段以上。奨励会で三段に昇段すると、年2回のリーグ戦を争い上位2人が棋士となる。なれるのは入会者全体の2割ほど。これまで、棋士になった女性は少ない。

タイトルは竜王・名人・王位・王座・棋王・王将・棋聖の7つ。  
女流棋士（じょりゅうきし）  
棋士とは異なる女性限定のタイトル。女流王座・女流王位・女流王将・女流王座・倉敷藤花・女流名人の6つ。

### インタビュー 小学校時代の担任や市将棋クラブの代表に加藤さんについて話を聞きました



5年生のときの担任 諸田 朱美 教諭

#### 夢に向かい自信を持って進んで

桃子さんの快挙を新聞で知った際はとても驚き、うれしくなりました。当時から負けず嫌いで、何事にも真剣に取り組んでいました。将棋で忙しかったのに宿題を忘れたことなどなく、学業と将棋を両立できていたんだと思います。これからも、自分で決めた夢に向かって自信を持って進んでほしいです。



市将棋クラブ 今村 泰治 代表

#### 将棋に興味を持ってもらいたい

片浜で将棋センターを開いています。加藤さんとは彼女が小学生のころに対局した経験があり、当時から強いと感じていました。将棋は棋力、精神力、体力、全てが揃わないと勝つことができません。これを機に多くの人に将棋に興味を持ってもらいたい。将来棋士となり、市民に指導する加藤さんの姿が見たいです。

（取材協力）公益社団法人日本将棋連盟、蒲田将棋クラブ、将棋センター「飛車角」